

平成21年 8 月 7 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア サ カ 理 研
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 山 田 慶 太
 (コード番号：5724)
 問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 鈴 木 忍
 TEL. 024-944-4744(代)

業績予想の修正についてのお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年5月1日に公表した平成21年9月期通期(平成20年10月1日～平成21年9月30日)業績予想(連結・個別)を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成21年 9 月期通期の連結業績予想数値の修正

(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	8,047	23	52	170	67円69銭
今回発表予想(B)	8,628	122	41	89	35円61銭
増減額(B-A)	581	99	93	80	-
増減率(%)	7.2	421.9	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期)	13,694	849	783	405	197円78銭

2. 平成21年 9 月期通期の個別業績予想数値の修正

(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	8,047	25	48	162	64円50銭
今回発表予想(B)	8,628	123	43	83	33円09銭
増減額(B-A)	581	97	91	79	-
増減率(%)	7.2	386.8	-	-	-
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期第2四半期累計)	13,694	842	777	416	203円07銭

3. 修正の理由

世界規模の不況に対し各国で緊急経済対策を打ち出し実施している状況の中、一時の景気の急激な落ち込みにも底打ち感が広がり、一部ではやや回復の兆しも見え始めてまいりました。また、当社主力製品である金を始めとする貴金属や銅の市況については円高の影響もあるものの、一時の安値圏を脱し、徐々に回復してまいりました。

このような状況の中、当社の主要なお客様が属する電子部品・デバイス分野の景況はピーク時と比較すると依然低迷しているものの、最悪期を脱しその生産を回復してきたお客様もでてきており、貴金属や銅の市況回復の影響もあるため、業績予測の修正を行うことといたしました。その主な要因をセグメント毎にご説明いたします。

・売上高について

(1) 貴金属事業

金価格について

前回修正時点の金価格は、870ドルから940ドル/トロイオンスで推移しており、当社は2,700円/gと設定しておりました。その後金の価格は高水準を維持し、直近1ヶ月間において、910ドルから970ドル/トロイオンスで推移しております。当第3四半期においては想定よりもやや高い金価格で推移しており、景気回復とともにやや下落する可能性や、為替レートが円高に振れる可能性もありますが、今後数ヶ月においては現状の価格を維持するものと見込み、想定価格は2,800円/gに修正することといたしました。第3四半期の実績を含めた貴金属相場変動による通期業績見通しへの影響額は、売上高で175百万円の増加となります。

業界の動向について

当社のお客様が属する電子部品デバイス分野の生産動向は、当期初めに大幅な生産調整に入り、第2四半期には底打ち感が出てきたものの、依然低位に推移しており、当社が想定していた以上の厳しい状況にあります。当第3四半期には、徐々に回復の兆しも見られますが、ピークの水準にまで生産が戻るにはかなりの時間を要すものと思われます。しかしながら、当社の一部のお客様におきましては、急激な在庫調整の反動からか、当社が想定した以上の生産活動を行っており、当社の第3四半期全体としては、売上高を伸ばしております。これらの状況を反映したことによる貴金属相場変動以外による業績修正への影響額は、売上高で343百万円の増加となります。

(2) 環境事業

銅価格について

前回修正時点における銅価格につきましては、400千円/tと想定しておりました。当第3四半期において銅建値は450千円から540千円で推移いたしました。その後も順調に推移し、直近では600千円を超える水準に達しておりますが、LME(London Metal Exchange)の銅在庫が徐々に増加していることや、為替が今後円高に振れる可能性などの懸念材料もあるため、当期末にかけての銅価格を550千円/tに修正することといたしました。当事業の通期における、銅価格変動による業績修正への影響額は、売上高で30百万円の増加となります。

業界の動向について

電子部品、自動車業界の低迷により、当社のお客様である北関東、東北エリアのプリント基板業界については、その生産動向は依然低迷しておりますが、当第3四半期には当社が想定していたより早

くその生産を回復させてきております。当社の主力製品である塩化第二鉄液のエッチング用途の販売については、ピーク時と比較すると未だ低位であるものの、当第3四半期については当社が想定していた数量を上回って推移しており、当期後半についても現状の水準で推移していくものと見込んでおります。これらの影響を反映した環境事業全体における、通期の業績修正への銅価格以外の数量等による影響額は、売上高で47百万円の増加となります。

以上のことから連結売上高については、通期で8,628百万円となる見込みです。

・利益について

利益につきましては、上述の貴金属相場の上昇や主要なお客様の属する業界の伸びを要因とする売上高の増加の影響や、景気の悪化以来継続して推進している全般的なコスト削減の諸施策が順調に進んでいること等により、通期における連結営業利益は122百万円、連結経常利益は41百万円と黒字に転換する見込みです。連結当期純損失につきましては、上記の事由により、通期で89百万円となる見込みであります。

なお、個別業績予想の修正につきましては連結業績予想の修正と同様の理由によるものであります。

今後とも厳しい事業環境が続くものと想定されますが、全社一丸となって利益確保に努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上